

第1回 新湾岸道路有識者委員会 議事概要

■開催日時：令和6年8月2日（金）15：00～17：00

■開催場所：九段第三合同庁舎 15階会議室

■出席者

[委員長] 屋井 鉄雄 （東京工業大学特命教授・名誉教授）

[委員] 池邊 このみ （千葉大学グランドフェロー）

小幡 純子 （日本大学大学院法務研究科教授）

佐々木 淳 （東京大学大学院新領域創成科学研究科教授）

白石 和泰 （TMI 総合法律事務所）

寺部 慎太郎 （東京理科大学創域理工学部社会基盤工学科教授）

中村 英夫 （日本大学理工学部土木工学科教授）

二村 真理子 （東京女子大学現代教養学部国際社会学科教授）

[事務局] 関東地方整備局千葉国道事務所長 藤井 和久

千葉県県土整備部道路計画課長 横田 彰洋

千葉市建設局道路部道路部長 日暮 秀訓

市川市道路交通部長 米崎 勝則

船橋市建設局都市計画部長 杉原 弘一

習志野市都市環境部次長 金坂 邦仁

市原市土木部長 須田 雅祥

浦安市都市政策部長 須賀 真

■議 事

(1) 新湾岸道路有識者委員会の設立

(2) 構想段階の進め方

(3) 湾岸地域の状況について

(4) 課題と目標について

(5) 情報発信と意見聴取

■審議結果

- 「新湾岸道路有識者委員会 設立趣旨（案）」および「新湾岸道路有識者委員会 規約（案）」について了承された。
- 「構想段階の進め方」について、基本的な考え方が了承された。
- 「情報発信と意見聴取」について、以下の意見を踏まえて引き続き検討することになった。

■主な意見

- これから本格的に新湾岸道路のルートを検討していくということを広く周知することが重要である。
- 高規格道路は利便性を向上させるという意味で非常に公益性の高いものと認識。
- 自然環境や生活環境への配慮は欠かすことのできない要素であり、構想段階の計画策定プロセスガイドライン（国交省）や道路計画策定プロセスガイドライン（道路局）に沿って計画プロセスを進め、幅広く意見を聴取することは、非常に重要。
- 本件では、多くのステークホルダーから拾い漏れがないように丁寧に意見を聞くようなプロセスを経ることが想定されており、必要なプロセス項目として、特段不足しているところはないように思う。
- 環境影響評価の手続きとうまく連携して技術的な議論ができるような形で進めることが非常に大切である。
- 将来を見据えて評価してもらえただけの材料を準備すべきである。東京の新しい道路が、インフラ技術等によって、地域の環境を改善したと言われるようなものを考えることが望ましい。
- 複数案の設定の段階において、一番注力してコミュニケーション活動を行うべきであり、丁寧にやるべきである。
- 新湾岸道路の必要性について、成田空港の機能強化の実現にも関連するので、湾岸地域の社会・地域経済課題へ追記すると良い。
- 新湾岸道路ができることによって地域の未来がどう変わるか、どう変えたいかが一定程度伝えられるようなもの、例えば「W I S E N E T 2 0 5 0 ・政策集」^{*1}や「2040年、道路の景色が変わる～人々の幸せにつながる道路～」^{*2}をコミュニケーション活動の場で情報提供することは、国交省のこれからの道路づくりに対する姿勢を示すことができ、また地域の関心を高める上でも重要である。
- 自然環境と景観が配慮事項に記載されているが、環境影響評価では人と自然との触れ合いが評価項目となっているため、追加してもよいと思う。配慮事項については、いろいろな立場の方々の思いを受け止めるようにとりまとめていくのがよいのではないか。
- 千葉県は以前から農業や水産業が盛んな土地であり、育んできた文化がある。新湾岸道路の整備により、更に住みやすく働きやすい場所になるということも改めて出せると良い。

※1 「W I S E N E T 2 0 5 0 ・政策集」国土交通省道路局

※2 「2040年、道路の景色が変わる～人々の幸せにつながる道路～」国土交通省